



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occ.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫■

「天命と人事」

以前、巡回伝道者の中野雄一郎先生がオレンジ郡教会でご用をさせて頂いたこと、説教の中で天命と人事について語ったことがあった。その時はあまり心に留めてはいなかったのだが、つい先日、榊原康夫先生の著書『マタイ福音書講解』を読んでいた時、これに言及していた。これで肯首した次第である。

「キリストの恵みを高調した大説教の後で、感激した一長老が、その牧師に申しました。『先生、昔から日本では「人事を尽くして天命を待つ」、と言いますが、しかし、クリスチャンは天命を待つて人事を尽くす、と言うべきですね。横で聞いていたわたしには合点がいかなくて、今だにその言葉を覚えていません。たとえば、百メートル競走を走れ、と神が命じられたとしましょう。人事を尽くして九〇メートルくらいまで走って見たが、力尽きたので、あと一〇メートルは神の背中に負われて頼る：これが世間の考え方でしよう。逆にこの長老の理屈では、まず神の力によって九〇メートル連れて行っていただいた後で、不足があれば、残り一〇メートルくらい、わたしに走らせていただきたい、と言うわけです。そうではない、断じてそのどちらでもありません。神の恵みは充分です。丸々百メートル全部を連れて行ってやろう、代わりに走りぬいてやろう、と主は言われます。キリストは事実、見事に走りぬいて、しかも賞品まで取って下さいました。その意味では、わたしたちの走る余地は、一メートルも残っていない。しかし、それほど恵みに感激して、わたしたちも、『ただ背負っていただくのではなく、わたしの足を下して、動かして、一緒に走りますから、連れて行って下さい』と、願わずにおれないのです。なるほど、百メートル走ったのは、わたしの足かもしれない。少なくとも見物も世間の目には、そう見えるかも知れない。しかし、わたしには分かっています。「いや、そうではない。これはキリストの恵みに連れられて行ったにすぎないのだ」と。人事を尽くして天命を待つのではない。天命を待つからこそ人事を尽くすのです」

へブル書に「信仰の導き手であり、その完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか」(十二・1)とある。主イエスがすでに完走された道を私たちは走るのである。それぞれに与えられた信仰の馳せ場があり、その全ての道を知悉しておられる主が見守って下さるので、私たちは迷わずに走ることが出来るのである。つまり「天命への信仰のゆえに人事を尽くす」のである。そういえば中野先生は、「天命に安んじて人事を尽くす」と言ったことを思い出した。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信條を、私達の信仰告白と致します。

